



おひざのうで

(副園長の子育ておうえん通信) (30年7月)



「前を向いて」

せんりひじり幼稚園
副園長 安達 かえで

地震や大雨などの大きな天災が起き、非常に不安な日が続きましたね。被害に遭われた方々には謹んでお見舞い申し上げます。七夕祭りは「絶対にやりたい」と思う私たちや子どもたちの思いは届かず、避難警告や指示が出る中であきらめざるを得なかったのは本当に残念です。

子どもたちが休園中、私たちは打ち合わせ&会議に明け暮れました。今後の行事について、学期末の振り返りについて、園内研修について、夏休みの学会の発表についてなどなど……。また、子どもたちが見せる姿からその思いを探り、そしてその中から育ちを考えていくことを継続しています。10日は園内研修をしました。ひとりひとりの子どもの心を深く掘り下げて探ったり、関わり方を考えてみました。こうやって保育の専門性を向上していきますが、お互いの思いを尊重し合う職員の信頼関係も大切にしています。子どもにとっても大人にとってもいい組織であるために、専門性と関係性の両方を向上していけたらいいなと思っています。

さて、8月は1号の子どもたちは夏休み。ホームクラスの子どもたちは、朝から特別な保育を実施します。ご家庭では、いつもより子どもと過ごす時間が長い分、どこに連れて行こうかなあ、何をしようかなあ、楽しみなような、ちよつとめんどくさいような……そんな気分の日もありますよね。でも、「この子の人生の中で、この一瞬はもう二度と来ないんだ。」と、子どもを育てているときにふと思ったりしました。親が子どもと一緒にいられる年月は限られてて、大人になって自分の力で生きていく年月のほうがずっと長いですよね。その長い月日を、小さいころに親にもらった愛情と、親と経験して貯め込んだ感性を食べながら生きていく……そんな風に思うと、一緒にいることのできる短い月日を密度の濃い時間にしたいですね。

年長組が7月18日から一泊二日で、能勢にお泊り保育に出かけます。(安全確認済です)能勢の古い民家に泊まります。土間や縁側があるような日本家屋です。そして、近くの山に行くと自然と触れ合います。子どもたちにとっては寂しがらぬ暇がないほど刺激にあふれた2日間です。山で目に入る風景の不思議に気づくためのしかけがあったり、少しの「できるかなあ」にチャレンジしたり、見つけたことをみんなで教えあったり、共有したりします。管理の大変さから、レジャーランド等での宿泊保育にする幼稚園もあるようですが、自然の中で子どもの感性を育てることがその後の人生の大きな力になると思います。

私たち職員は夏休みに様々な研究会に参加します。また、日ごろの保育の取り組みの実践発表も次のようにします。・鍋野温香・中島篤史(ひじりひがし)(近畿地区研究大会@奈良)・安達かえで・南彩(北海道私立幼稚園研究大会)・藤原晴子・米田亜里沙(ひじりひがし)(幼児教育実践学会@東京・口頭発表)湯浅優典(幼児教育実践学会@東京・ポスター発表)。また下江聡子(ひじりひがし)は全国優秀教員表彰を受けます。園長も全国各地のシンポジウムで登壇します。自分たちの学びの機会でもあります。子どもたちの幸せな育ちのためにみんなで語り合う暑い夏にしたいと思っています。

皆様も健康に気を付けて、充実した夏をお過ごしくださいね。

.....
(おひざのうで7月号)ご意見や感想があれば是非お書き下さい (組)()